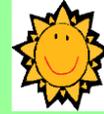




スマイルサポート



No.5 令和7年2月20日発行

1月に高等学校の特別支援教育の中心になって取り組んでいる特別支援教育コーディネーターの先生方とオンラインで特別支援教育の校内体制の充実をテーマに意見交換、協議をしました。

高等学校の特別な支援の必要な生徒への相談・支援の取組

充実のための取組 生徒の変容につながった取組の工夫について、話題となったことを紹介します。

新入生保護者へのアンケート調査から保護者ニーズを収集しています。

地生研では生徒の情報収集以外にも教育支援計画の有無や必要な配慮等も確認しています。

4月の校内委員会で生徒の実態や必要な支援について話し合い、職員会義で全職員に伝えています。

個別の教育支援計画の作成は大変だが、先生方が共通した配慮ができ、生徒の自己理解や進学先への引継ぎに活用している。

関係機関（SC・SSW・医療・高校特別支援チーム・福祉機関等）と意識的に連携して対応するようにしています。

学担一人で抱え込まずに、生徒の適切な支援の検討のためにも、チームで取り組むよう、先生方にお話しています。

課題

課題やさらに充実させたい点についても話題となりました。



先生方一人一人の特別支援の理解に違いがあり、難しさがあるが、管理職の理解と後押しがありとても助かっている。

生徒の自己理解、保護者の協力が得られないケースでは、生徒への適切な対応が難しいことがある。

中学校からの引継ぎが十分ではないケースが入学後にある。効果的な引継ぎについて、さらに工夫が必要。

支援の工夫

北地区だけでなく、全県での支援の工夫例を紹介します。



課題が提出できない

背景：段取りの苦手⇒早めの期日の視覚的提示・一つ終わったら認めて次を伝える・個別に付箋に書かせて確認する
背景：書くことの苦手さ⇒虫くいプリントの活用・PCの使用 他

学習に集中できない

背景：不注意性の特性がある⇒視覚化、動作化、課題の小分け・学習ゴールと授業の流れの提示等
背景：環境への過敏性⇒ノイズキャンセリングのイヤホン使用・席の工夫・定期的な状況確認

人との距離感が分からない

背景：抽象的理解の困難⇒50センチ等具体的に伝える・週1回 SST・話し掛けるタイミングを教える・不安定な背景を推測し、関係職員で共通に対応する

解答用紙の拡大

ヒントの記載があるワークシートの作成

解決に必要な情報に印・場面の図式化

UD授業づくり・合理的配慮が高等学校でも日常的に取り組まれている先生方がたくさんいらっしゃいます。でも、担任が替わったら？・・・学年が変わっても、進学、就職とステージが変わっても、学びやすく生活しやすいための配慮が合理的配慮です。個別の教育支援計画を作成し、確実にこれまでの配慮を次の担当に引き継げるようにしましょう。

支援チームの関係機関から

障害者就業・生活支援センターの方の助言より
・発達障害の方はできることの凹凸がある。できないことに目がいきがち。凹凸を埋める支援もあるが、社会に出たときにできることを伸ばすことも必要な支援の在り方だと思います。

指導主事の先生より

・保護者、生徒本人が参画する個別の教育支援計画の作成活用が大切です。困難さへの支援の効果をも本人と確認をしながら改善を図っていくことが必要。中学校段階までに本人・保護者が実感することで進学先への引継ぎ、活用につながります。